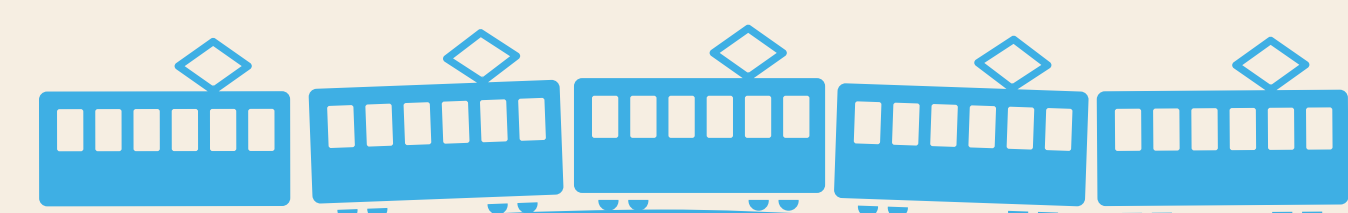


9

世界で最初の海底鉄道トンネル

かんもんてつどう

関門鉄道トンネル



関門鉄道トンネルは、山口県下関市と福岡県北九州市門司区間の関門海峡をくぐって、本州と九州を結ぶ世界で最初の海底鉄道トンネルで、山陽本線下関駅～門司駅間に位置しています。

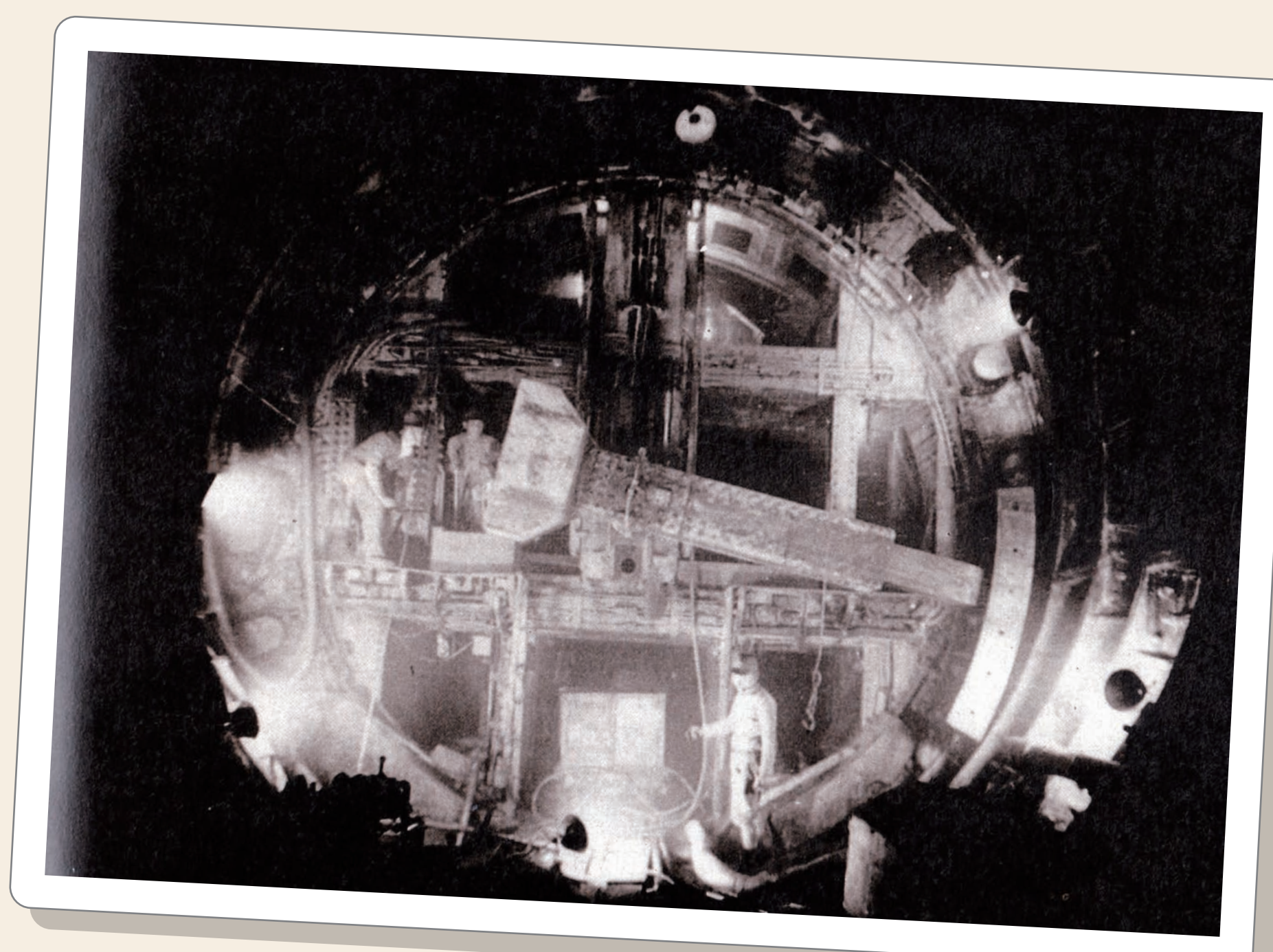
工事は1936年(昭和11年)に着工され、戦時下の1942年(昭和17年)に下り線が、1944年(昭和19年)に上り線が開通。日本で初めて本格的な大断面(内径7m)のシールド工法が採用されました。

トンネルは、工事の難易度や費用、また万一トンネル内で事故が起きた場合を考慮し、下り線と上り線が別々の単線トンネルとなっています。トンネルの延長は上り線3,604m、下り線3,614m、海底部は上下線ともに1,140mです。

開業後60年以上を経た今でも、本州と九州を結ぶ物流の大動脈として活躍しています。



写真提供:(一社)建設コンサルタンツ協会 塚本 敏行



写真引用:西日本鉄道㈱「鉄輪の轟き」より

旅客

セグメント組立状況



山口県下関市
～福岡県北九州市



世界初の
海底鉄道トンネル

日本で最初の
本格的な大断面
シールドトンネル

設計、製作、材料
すべてを
国内・国産で行う

10

日本で最初の道路トンネル

どうもん

青の洞門



江戸時代中期、1764年(明和元年)に開通した日本で最初の道路トンネルです。延長は約144mで、禅海和尚が托鉢勧進によって資金を集め、雇った石工達とともにノミと槌だけで約30年かけて掘り抜いたと言われています。

トンネル開通前は、断崖絶壁に鎖だけが結ばれた極めて危険な難所であり、通行人が命を落とすのを見た禅海和尚が、1735年(享保20年)に工事を始めたと伝えられています。1750年(寛永3年)の第1期工事の完成後には、通行人4文、牛馬8文の通行料を徴収したという話が伝わっており、日本で最初の有料道路とも言われています。

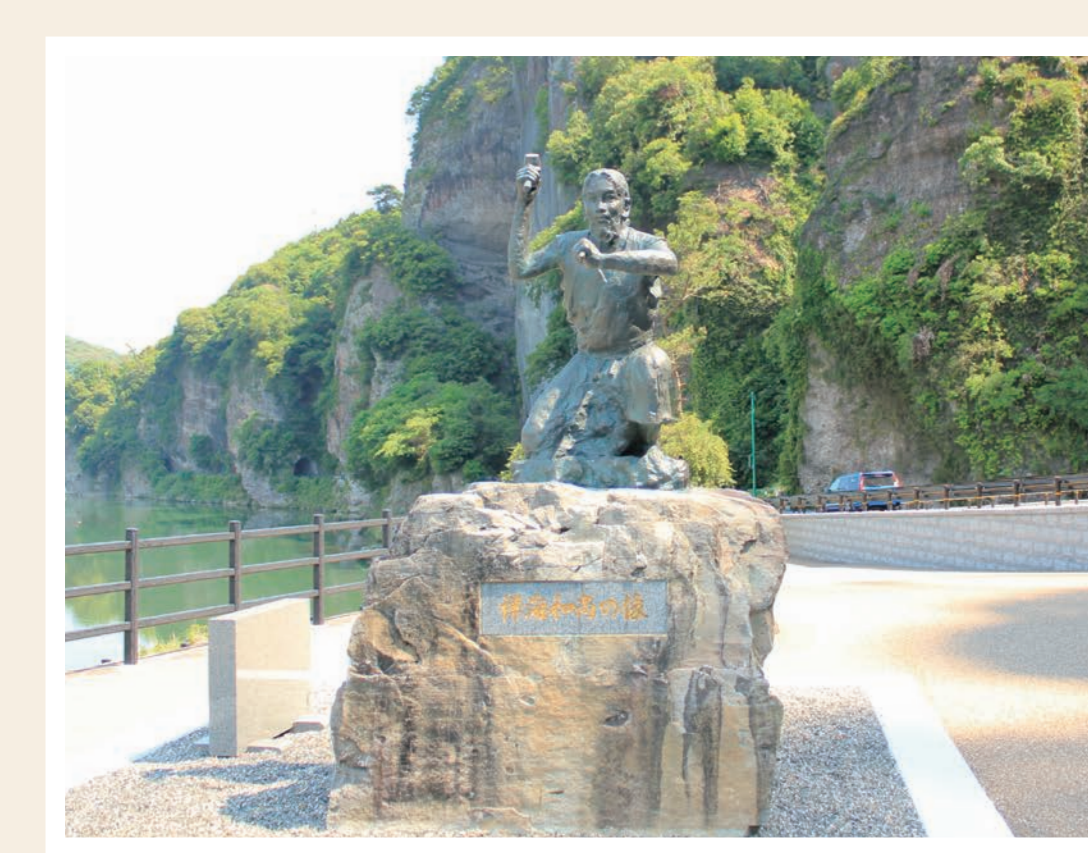
1906年(明治39年)から1907年(明治40年)にかけて行われた大改修で原型の大部分が失われてしまいましたが、明かり採り窓などの一部に手掘りのノミの跡が残っています。

1919年(大正8年)に発表された菊池 寛の短編小説「恩讐の彼方に」のモデルとしても知られています。



青の洞門構内

坑



禅海和尚像



大分県中津市



日本で最初の
道路トンネル

ノミと槌だけで
約30年かけて完成

日本で最初の
有料道路